

「 起こるその前に 」

神奈川県 厚木市立小鮎小学校 4年 ^{なるい}成井 しおり

その日の朝は、雨の音で目がさめました。パチパチと屋根から聞こえてくる音はとても大きくて、まどの外の景色が見えなかったら石でも当たっているのではないかと思うくらいでした。いつもわたしよりおそく起きてくるお父さんがいません。お母さんにきいてみると、「もう2時間も前に仕事に行ったよ。今日は大雨の予報が出ているからね。職場から電話がかかってきたみたい。」

わたしのお父さんは工事現場ではたらいっています。だから大雨の日や台風の日などは、こうして早く出発することがありました。でもこの日はいつも以上に早くおどろきました。

学校はいつも通り行きました。帰り道の水たまりは今まで見たことがないくらい大きく広がっていて、歩道と車道のさかい目がよく分からなくなっていました。家に帰ると、いつもは外出しているお母さんがわたしを待っていました。でもわたしが帰ってくるのを見るとすぐに大きな荷物を持ちながらげん関にむかってしまいました。

「1時間以内には帰って来るから、カギをかけてぜひ家に家から出ないでね。」わたしはわけがわからないまま、家で一人で待っていました。雨は朝と同じくらいに見えましたが、風が強くなってきたようです。となりの家に生えている木がしなっていました。

お母さんは約束通り、1時間で帰ってきました。何をしに行ったのかきいてみると、お父さんの着がえやご飯などをとどけに行ったそうです。

「じゃあお父さん今日は帰って来ないの?!」

わたしがあわててきくと

「どうかな、まだ分からない。天気次第だとは言ってたけどね。どっちにせよ早くは帰って来ないだろうから。」

お母さんはいつもの調子で返事をしました。でも何度も外を見ているようでした。

次の日の朝、なんとなく早く目がさめると、キッチンにお父さんのカバンが置いてありました。ちゃんと帰って来られたのだと安心しました。起きてきたお父さんはすごくねむそうでした。昨日のことをきいてみましたが、結局何も起きることなく、雨が弱くなったところを見はからって帰って来たそうです。

「何もなかったならお父さんが行く必要はあったの?」

わたしがきくとお父さんはすぐに首を横にふりました。

「何かあってからではおそいんだよ。できる対さくをやっておけば防げるものがあるからね。雨のさい害は急にはこないからさ。何にもなかったならそれはそれでよかったでいいんだよ。」

なるほど、と思いました。今までお父さんが天気の悪い日に早く出かけていたのも、さい害を前もって防ぐためだと知りました。お父さんは現場で、さくをがんじょうな物にしたり、シートをはって物が飛ばないようにしたりして近くに住んでいる人があぶなくないように対さくをしています。

雨のさい害はこわいですが、先に対さくをすれば防ぐことができるものもあると知れてよかったです。また、お父さんのようにそのために仕事をしていてくれる人がいることも分かりました。わたしも雨のさい害にまきこまれないように、対さくをしていけたらいいなと思いました。